

KEY TOPIC

『地域みっちゃく生活情報誌®』の拡大が急加速! 5,000万部への一里塚

日本全国のご家庭に地域ごとの情報誌を届けるため5,000万部の発行を目標に掲げる『地域みっちゃく生活情報誌®』。今期も順調に発行部数を伸ばしてきましたが、この秋、さらに勢いが加速。新たに2社のVC加盟契約を締結して総発行部数は1,300万部を突破、5,000万部の目標に対して進捗率25%超えを実現しました。

2社のVC加盟で 各地の占有率が上昇

第47期は期初から複数社とVC加盟契約を締結し、さらに中広グループ各社による全国各地での情報誌創刊を経て、総発行部数を着実に伸ばしてきた『地域みっちゃく生活情報誌®』。この度、新たに千葉県・茨城県で『ちいき新聞』を1,731,648部発行する株式会社地域新聞社、岩手県で『情報紙ゆうゆう』を120,000部発行する株式会社俵屋舎の2社とVC加盟契約を締結し、総発行部数は1,300万部を突破しました。これで今期目標である1,500万部に向けた進捗率は89%となります。同時に、最終目標である5,000万部発行に対しては25%超の進捗率となり、日本全国の各ご家庭に『地域みっちゃく生活情報誌®』をお届けするための一里塚を築くことができました。

両社のVC加盟により『地域みっちゃく生活情報誌®』のドミナント戦略も点から線、そして面へと着実に成長しています。

まず東北地方は岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県と、青森県を除く5県での発行となり、総発行部数は1,149,870部。東北



千葉県各地域・茨城県一部地域で発行 / 1,731,648部 (毎週)



岩手県盛岡市で発行 / 120,000部 (月2回)

地方の総世帯数における『地域みっちゃく生活情報誌®』の占有率は30%を突破しました。また、関東地方では東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県の1都6県全てで発行となり、計63誌、総発行部数は4,309,402部。関東地方の総世帯数における占有率は20%を超えました。

5,000万部に向けて 神髓は質の向上

『地域みっちゃく生活情報誌®』は、最終目標である全国5,000万部発行に向けて着実に歩みを進めています。その神髓は情報誌の質の向上です。



9月10日に行われた株式会社俵屋舎との調印式

総発行部数が拡大すれば、情報誌から得られるデータ量が増え、解析・分析結果は先鋭化します。こうして得られた知見をグループ各社はもとよりVC各社にも共有し、データに裏付けられた読者満足度の高い誌面、高反響が期待できるフォーマット企画やフリー広告原稿を追求した情報誌を増やすことで、数の力は数倍、数十倍に昇華させることができます。これこそが読者とクライアントの役に立ち、地域とその集合体である日本を元気にすることにつながるのです。

まずは今期の1,500万部達成と、その先にある5,000万部到達を目指して。全国の同志と共に『地域みっちゃく生活情報誌®』の挑戦は続きます。

新しくVC加盟契約を締結した2社をご紹介!



株式会社地域新聞社
代表取締役社長
細谷 津彦

日本全国のフリーマガジン 発行事業の活性化に貢献します

千葉県を中心に毎週170万部の『ちいき新聞』を発行している当社ですが、2024年2月時点での時価総額は上場企業の中で最下位。上場維持基準の適合に向けてシバワーストラテジーを推進する中で、9月には足元の純資産を3倍にする財務戦略を成功させることができました。今後の当社の成長戦略のうえで大きな柱となるのが、VC加盟による全国の媒体ネットワークの活用です。1,300万部となる配布インフラを武器にお客様の期待に応え、地域経済の活性化に貢献していきたいと考えております。



株式会社俵屋舎
代表取締役社長
相原 幸生

N.Yタイムズ紙も認めた街 「盛岡」の魅力をもっと届けたい

岩手県盛岡市で12万部発行している『情報紙ゆうゆう』です。1998年の創刊から、盛岡市の情報・魅力を読者の方へお届けしています。情報過多となっている昨今ですが、我々紙媒体のやるべきことは変わっていません。世界に認められた盛岡市の魅力を常に伝えていくために、私たちが常にアップデートし、時代に沿った紙面づくりをしています。全国のフリーマガジン発行社の皆さまと切磋琢磨しながら盛り上げていきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

COLUMN

おはようございます 朝起きについて

人生は時間 時間は命

還暦を迎えてから始めた早朝ウォーキング。前夜にどれだけ深酒しても5時には起床、水を一杯飲んで大きく息を吸い込み、国盗りの山・金華山の頂に聳える岐阜城に一礼して歩き始めます。雨であろうと雪であろうと、余程のことがない限り続けています。早朝なので多くはないのですが、行き交う人と挨拶します。「おはようございます」と声をかけると、「おはよう」と返ってきたり、うなずいたりとの反応があります。

挨拶は心を映すバロメーターです。自分も相手も声を交わせば、心地の良いものです。この7月から、ラジオ体操を始めました。早朝ウォーキングで毎朝見かける人が、NHKのラジオ体操をやっている、ずっと気になっていました。一緒にやらせて欲しいと願って2カ月、ラジオ体操を続けています。この体操は実によく考えられていて、なかなかの運動量ですが、肩こりがほぐれ血行が良くなりました。ウォーキングとはまたひと味違った朝の景色が見られ、実に爽快です。

朝のラジオ体操は朝6時30分からの10分です。たった10分間だけ、自分の人生を体操のために費やしているのですが、私にとって有意義な時間です。

人生とは時間であり、時間とは命そのものなのです。自分の命を大切にすることは、「自分の時間を何に換えたか、自覚できているかどうか」ではないかと思っています。自分の時間を何に費やしたか分からない、なんとなく時間が過ぎていくとしたら、もったいない。自分の命を有効に使い切りたいと思うほど、朝の10分は大切に、かつ楽しく感じるので。

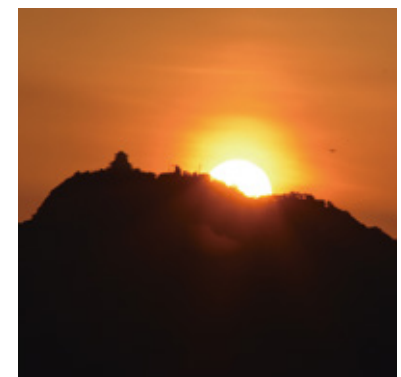
自分が決めたことを 自分が実行するだけ

日々の暮らしのひとつコマ、ひとつコマが自分の人生です。そのひとつコマを取り出して、やり方を変えてみたりすると、何かに気づきます。やってみれば簡単なことだったり、もっと早くからやればよかったなどと、自分なりの変化が見えてきます。多くの人は自分を変えたい、成長させたいと願っていますが、様々な問題に出合ってしまう、なかなか思うようになりません。でもそれは、気づいたことを放っておくからです。こうしたほうが良いと分かっている、できない理由などなくても、やることをな

んとなく先延ばしにしてしまうのです。

これは、朝寝によく似ています。ほんの少し早く起きれば、自分や家族のためにできることがどれだけあるでしょうか。それでも起きられず、あと5分でも、1分でもいいからと寝床から離れない。「私は夜型なので朝は苦手。なかなか朝起きができず、どうすれば良いのか」とよく尋ねられます。秘訣などありません。「さあ明日から早く起きるぞ」と決めて、早く寝て早く起きればいいだけです。自分が決めたことを自分が実行するだけのことです。

私は、早起きを強制しているわけではありません。自分の人生とは「生まれてから死ぬまで」の時間ですが、その時間の使い方は個人の勝手であり、他人からとやかと言われる筋合いのものではありません。ただ、思いのまま存分に使って欲しい、と願っているだけなのです。



金華山、岐阜城の朝日

最も生産的な時間 朝活のすすめ

アップルの現CEOであるティム・クック氏は、毎朝4時半くらいから社員へのメールを送り始めるそうです。アメリカの日報経済新聞「ウォール・ストリート・ジャーナル」は、「最も生産的な時間」は午前4時だとして、「早起きをすることで注意散漫になる時間を避け、効率的な1日を過ごすことができる」と伝えています。

昔から日本では「早起きは三文の徳」という言葉がありますが、最近では朝の時間を有効活用した「朝活」というのが行われているそうです。

朝の時間を充実させれば、仕事が前に進むのは間違いありません。仕事は段取り7分です。朝の時間を日々上手く活用できる人が成果を上げ、人生そのものを豊かにしているこ

とも事実です。

理性と感情を司る大脳皮質は朝に活発になると言われています。「一晩寝てから、朝考えてみたら」、悩んでいることがすっきりしたり、気持ちさがガラッと変わっていたりします。脳科学者の茂木健一郎氏は、「朝は脳のゴールデンタイム」と言いました。ドーパミンやアドレナリンが多く分泌されるため、やる気や集中力が高まり脳が最も効率よく働きます。

笑顔で繋がる 朝の挨拶

8月の下旬、迷走台風が列島を襲い、全国各地で異常な雨を降らせました。9月に入っても猛暑日や真夏日が続く、お彼岸を迎えてようやく秋めいてきました。8月8日に起きた日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震により、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表されました。

気象庁は緊急地震速報を出して、九州・四国・関西・東海地方沖を震源とする南海トラフ地震が、1週間以内に発生する可能性があるとして国民に注意喚起。15日には、この特別な注意の呼びかけを終了し現在に至っていますが、海岸地域を中心とした西日本は経済的に大打撃を受けました。しかし、南海トラフ地震による経済損失を発生後20年間の累計で1,240兆円と土木学会は試算しています。

日本の国土面積は全世界の0.29%です。全世界で見ると、マグニチュード6以上の地震の18.5%が日本で起こっていて、活火山の7.1%が日本にあります。また、災害を受けた被害金額は17.5%となっています。極東のこの小さな国は、まさに自然災害大国なのです。9月27日の自民党総選挙で新しい総裁が決まり、10月初旬に解散、下旬に衆議院総選挙になる可能性が大ですが、為政者にこの国の未来を託すことになります。

私は、これはこうあるべきだとか、こうでなければならぬといったことは何もありません。ただ、朝「おはようございます」と、元気に大きな声で挨拶できるかどうか。それだけで、広告の仕事は成り立つと思っています。「おはようございます」と挨拶すれば、自分も自分の周りの人も笑顔で繋がりが、心が温まっていくと信じています。

たかが朝起き、されど朝起き。さあ、今朝も「おはようございます」。

13,304,442部

※情報は2024年9月発行号に基づき掲載しています ※VC発行エリアを含む ※昔番到達率は配布部数を9月24日現在の各県が公表している昔番数で割り算し一部リレイヤー発行に伴い10月に流通していないものを含む ※発行日は月により変動する可能性があります。詳細はお問い合わせください

北海道	道内発行媒体数 6誌	道内総発行部数 928,540部
SORA vol.115	滝川市・砂川市・赤平市・歌志内市・新十津川町・赤井江町	41,500部 20日発行

旭川市	旭川市豊平区・清田区・南区・中央区(東部)・北広島市大曲	229,675部 第4火曜日発行
札幌市	札幌市中央区・手稲区・東区(前成川より東)・江別市大森地区	236,370部 第4火曜日発行
帯広市	札幌市白石区・厚別区中央区(前成川より東)・江別市大森地区	173,615部 第4火曜日発行
小樽市	札幌市西区・手稲区中央区(西部)・小樽市(一部)	186,380部 第4火曜日発行
千歳市	千歳市・恵庭市	61,000部 第4木曜日発行

秋田県	県内発行媒体数 1誌	県内総発行部数 140,200部
QKuRaSu vol.183	秋田市	140,200部 1日発行

宮城県	県内発行媒体数 5誌	県内総発行部数 577,920部
仙台市	石巻市・東松島市・女川町	59,000部 20日発行
大崎市	大崎市	40,000部 20日発行
仙台市泉区	仙台市泉区・富谷市	84,600部 20日発行
名取市	名取市・岩沼市・黒川町・柴田町・大河原町	58,830部 20日発行
仙台市青葉区	仙台市青葉区・若林区・太白区・宮城野区・宮城野区・多賀城市・石巻市・東松島市・大和町・柴田町・七ヶ浜町・利府町	335,490部 第4または第5金曜日発行

山形県	県内発行媒体数 2誌	県内総発行部数 225,450部
鶴岡市	【東南おきたま版】米沢市・南陽市・高島町・川西町	60,000部
酒田市	【西おきたま版】長井市・白鷹町・飯盛町・小国町	22,000部
鶴岡市	【西おきたま版】飯盛町・小国町	82,000部 20日発行
山形市	仙台市青葉区・泉区・若林区・太白区・宮城野区・若林区・宮城野区・泉区・名取市・岩沼市・栗田郡栗田町・塩釜市・多賀城市・宮城野区七ヶ浜町・利府町・石巻市・東松島市	143,450部 第4または第5金曜日発行

福島県	県内発行媒体数 2誌	県内総発行部数 86,300部
いわき市	須賀川市・楡石町・天栄村・玉川村・石川町・須賀川町・茨戸町・白旗町・平田村	53,300部 25日発行
会津若松市	白河市・西郷村・泉崎村・小島村	33,000部 25日発行

茨城県	県内発行媒体数 6誌	県内総発行部数 380,270部
日立市	日立市	62,000部 25日発行
水戸市	筑西市・下妻市・結城市	44,000部 25日発行
古河市	古河市・埴野町	52,000部 25日発行
つくば市	つくば市・土浦市・牛久市	130,000部 月末発行

かしす vol.131	鹿嶋市・神栖市・潮来市	50,000部 25日発行
ちいき新聞 vol.391~392	守谷市・つくばみらい市・取手市	42,270部 毎週金曜日発行

栃木県	県内発行媒体数 1誌	県内総発行部数 52,000部
小山市	小山市	52,000部 25日発行

群馬県	県内発行媒体数 5誌	県内総発行部数 403,000部
太田市	太田市	50,000部 25日発行
桐生市	桐生市・みどり市	50,000部 25日発行
伊勢崎市	伊勢崎市	63,000部 25日発行
前橋市	【北西版】前橋市・吉岡町 【南東版】前橋市	65,000部 120,000部 25日発行
高崎市	高崎市	120,000部 25日発行

埼玉県	県内発行媒体数 9誌	県内総発行部数 1,065,865部
久喜市	久喜市	52,000部 第4月曜日発行
羽生市	羽生市・加須市・行田市	56,400部 第4月曜日発行
熊谷市	熊谷市	62,000部 1日発行
深谷市	深谷市	44,000部 20日発行
所沢市	所沢市・入間市・狭山市・嵐山市・川越市・ふじみ野市・三芳町・富士見市・日高市	174,985部 第1または第2金曜日発行

ARIFT	志木市・新座市・朝霞市・和光市	81,340部 第2または第3金曜日発行
埼玉南版	戸田市・川口市・蕨市・さいたま市浦和区・南区・緑区・岩槻区・桜区・中央区	247,830部 第2または第3金曜日発行
埼玉中央版	さいたま市西区・岩槻区・大宮区・見沼区・北区・上尾市・蓮田市・桶川市	159,810部 第1または第2金曜日発行
埼玉東版	越谷市・春日部市・草加市・吉川市・三郷市・八潮市	187,500部 第1または第2金曜日発行

東京都	都内発行媒体数 2誌	都内総発行部数 186,200部
練馬区	練馬区	51,470部 第2または第3金曜日発行
足立区	足立区・葛飾区	134,730部 第1または第2金曜日発行

千葉県	都内発行媒体数 39誌	都内総発行部数 1,694,547部
千葉市	千葉市花見川区 八千代市・習志野市	43,210部 毎週金曜日発行

習志野市	習志野市・船橋市 千葉市花見川区	40,415部 毎週金曜日発行
船橋市	船橋市	46,065部 毎週金曜日発行
津田沼市	船橋市	39,670部 毎週金曜日発行
習志野市	習志野市	38,730部 毎週金曜日発行
千葉NT版	印西市・白井市・船橋市	46,500部 毎週金曜日発行
成田市	成田市・栄町・富里市	42,492部 毎週金曜日発行
佐倉市	佐倉市・酒々井町	23,525部 毎週金曜日発行
富里市	八街市・富里市・成田市	19,490部 毎週金曜日発行
船橋北版	船橋市	32,875部 毎週金曜日発行
鎌ヶ谷版	鎌ヶ谷市・白井市	39,970部 毎週金曜日発行
船橋南版	船橋市	46,560部 毎週金曜日発行
船橋中央版	船橋市・市川市	47,295部 毎週金曜日発行
八幡市	市川市・松戸市	54,285部 毎週金曜日発行
市川版	市川市	40,365部 毎週金曜日発行
船橋西版	市川市・船橋市	55,585部 毎週金曜日発行
美浜版	千葉市美浜区	45,487部 毎週金曜日発行
千葉北版	千葉市花見川区 若葉区	29,493部 毎週金曜日発行
若葉版	千葉市若葉区 四街道市	44,025部 毎週金曜日発行
四街道版	千葉市稲毛区 若葉区・四街道市	36,375部 毎週金曜日発行
千葉中央版	千葉中央区・稲毛区 若葉区	47,009部 毎週金曜日発行
稲毛版	千葉市稲毛区	42,242部 毎週金曜日発行
蘇我版	千葉市中央区	32,864部 毎週金曜日発行
千葉南版	千葉市中央区・緑区 市原市	56,844部 毎週金曜日発行
市原版	市原市	59,112部 毎週金曜日発行
木更津・袖ヶ浦版	袖ヶ浦市・木更津市	37,319部 毎週金曜日発行
松戸駅周辺版	松戸市	61,900部 毎週金曜日発行
八柱・五香版	松戸市・柏市 鎌ヶ谷市	65,670部 毎週金曜日発行
新松戸・北小金版	松戸市	63,525部 毎週金曜日発行
流山版	流山市	47,570部 毎週金曜日発行
柏中央版	柏市	38,370部 毎週金曜日発行
柏南版	柏市	35,680部 毎週金曜日発行
柏北版	柏市・我孫子市	39,220部 毎週金曜日発行
柏西版	柏市・流山市	36,965部 毎週金曜日発行
我孫子版	我孫子市	39,225部 毎週金曜日発行
野田版	野田市	36,810部 毎週金曜日発行

新潟県	県内発行媒体数 3誌	県内総発行部数 181,000部
新潟市	新潟市(一部) 新潟市北区(豊栄) 胎内市・聖籠町	54,000部 30日発行
三条市	三条市・高市 茂茂町・弥彦村	64,000部 25日発行
上越市	上越市・妙高市	63,000部 20日発行

福井県	県内発行媒体数 1誌	県内総発行部数 33,928部
敦賀市	敦賀市・美浜町	33,928部 25日発行

山梨県	県内発行媒体数 4誌	県内総発行部数 175,000部
諏訪市	諏訪市・山梨市 甲州市	38,000部 25日発行
甲府市	甲府市・甲斐市 中央市・昭和町	82,000部 25日発行
南アルプス市	南アルプス市 富士川町	21,000部 25日発行
韮崎市	韮崎市・北杜市	34,000部 20日発行

長野県	県内発行媒体数 1誌	県内総発行部数 81,000部
諏訪市	諏訪市・茅野市 岡谷市・下諏訪町 原村・富士見町	81,000部 25日発行

岐阜県	県内発行媒体数 12誌	県内総発行部数 741,201部
高山市	高山市・飛騨市 下呂市・白川村	56,000部 28日発行
郡上市	郡上市	20,000部 20日発行
中津川市	中津川市・恵那市	44,600部 25日発行
土岐市	土岐市・瑞浪市	36,610部 25日発行
多治見市	多治見市	44,970部 25日発行
可児市	【かに版】可児市・御嵩町 44,270部	44,270部
岐阜市	【かも版】岐阜市 岐阜市南區・岐阜市東區・岐阜市西區 31,250部	31,250部
中津川市	中津川市・恵那市	44,600部 25日発行
土岐市	土岐市・瑞浪市	36,610部 25日発行
多治見市	多治見市	44,970部 25日発行
可児市	【かに版】可児市・御嵩町 44,270部	44,270部
岐阜市	【かも版】岐阜市 岐阜市南區・岐阜市東區・岐阜市西區 31,250部	31,250部

静岡県	県内発行媒体数 8誌	県内総発行部数 510,370部
浜松市	浜松市 浜松市東区・浜松市南区・浜松市中央区・浜松市東区・浜松市西区・浜松市北区・浜松市東区・浜松市西区・浜松市中央区	527,520部 第3または第4金曜日発行

静岡県	県内発行媒体数 8誌	県内総発行部数 510,370部
三島市	三島市・清水町 長泉町・裾野市	69,300部 月末発行
沼津市	沼津市	61,900部 月末発行
富士市	富士市	71,700部 月末発行
富士宮市	富士宮市	34,300部 最終土曜日発行
静岡市	静岡市東区	79,440部 第3または第4土曜日
静岡市駿河区	静岡市駿河区	75,830部 第3または第4土曜日
清水市	静岡市清水区	66,900部 第3または第4土曜日
藤枝市	藤枝市	51,000部 20日発行

愛知県	県内発行媒体数 35誌	県内総発行部数 2,363,954部
名古屋市	名古屋市 名古屋市東区・名古屋市北区・名古屋市南区・名古屋市西区・名古屋市東区・名古屋市南区・名古屋市西区・名古屋市東区・名古屋市南区・名古屋市西区	825,765部 68.6%

愛知県	県内発行媒体数 35誌	県内総発行部数 2,363,954部
名古屋市中区	名古屋市中区	34,000部
名古屋市長区	名古屋市長区	92,475部
名古屋市中区	名古屋市中区	64,990部
名古屋市中区	名古屋市中区	124,133部
名古屋市中区	名古屋市中区	84,800部
名古屋市中区	名古屋市中区	55,561部
名古屋市中区	名古屋市中区	104,229部
名古屋市中区	名古屋市中区	73,405部
名古屋市中区	名古屋市中区	64,940部
名古屋市中区	名古屋市中区	26,341部

滋賀県	県内発行媒体数 6誌	県内総発行部数 460,928部
守山市	守山市	68,200部
緑区	緑区	83,200部
豊橋市	豊橋市・豊川市 田原市・新城市	120,000部 最終金曜日発行
豊田市	豊田市	115,600部 末日発行
西尾市	西尾市	41,300部 第3金曜日発行
アサヒセト	尾張旭市 瀬戸市	64,900部 第4金曜日発行
ひまわり	長久手市 日進市北部	39,700部 第4金曜日発行
Sun-GO club	日進市南部 東郷町	37,950部 第4金曜日発行
KANA.U club	みよし市	23,100部 第3金曜日発行
ゆいまる	豊明市	26,610部 第3金曜日発行
Cocon club	刈谷市	60,000部 第3金曜日発行
ちるる	知立市	28,700部 第3金曜日発行
北知多FM	大府市・東海市 東浦町	65,000部 第4金曜日発行
安城FM	安城市	40,300部 第3金曜日発行

静岡県	県内発行媒体数 8誌	県内総発行部数 510,370部
三島市	三島市・清水町 長泉町・裾野市	69,300部 月末発行
沼津市	沼津市	61,900部 月末発行
富士市	富士市	71,700部 月末発行
富士宮市	富士宮市	34,300部 最終土曜日発行
静岡市	静岡市東区	79,440部 第3または第4土曜日
静岡市駿河区	静岡市駿河区	75,830部 第3または第4土曜日
清水市	静岡市清水区	66,900部 第3または第4土曜日
藤枝市	藤枝市	51,000部 20日発行

愛知県	県内発行媒体数 35誌	県内総発行部数 2,363,954部
名古屋市	名古屋市 名古屋市東区・名古屋市北区・名古屋市南区・名古屋市西区・名古屋市東区・名古屋市南区・名古屋市西区・名古屋市東区・名古屋市南区・名古屋市西区	825,765部 68.6%

愛知県	県内発行媒体数 35誌	県内総発行部数 2,363,954部
名古屋市中区	名古屋市中区	34,000部
名古屋市長区	名古屋市長区	92,475部
名古屋市中区	名古屋市中区	64,990部
名古屋市中区	名古屋市中区	124,133部
名古屋市中区	名古屋市中区	84,800部
名古屋市中区	名古屋市中区	55,561部
名古屋市中区	名古屋市中区	104,229部
名古屋市中区	名古屋市中区	73,405部
名古屋市中区	名古屋市中区	64,940部
名古屋市中区	名古屋市中区	26,341部

滋賀県	県内発行媒体数 6誌	県内総発行部数 460,928部
守山市	守山市	68,200部
緑区	緑区	83,200部
豊橋市	豊橋市・豊川市 田原市・新城市	120,000部 最終金曜日発行
豊田市	豊田市	115,600部 末日発行
西尾市	西尾市	41,300部 第3金曜日発行
アサヒセト	尾張旭市 瀬戸市	64,900部 第4金曜日発行
ひまわり	長久手市 日進市北部	39,700部 第4金曜日発行
Sun-GO club	日進市南部 東郷町	37,950部 第4金曜日発行
KANA.U club	みよし市	23,100部 第3金曜日発行
ゆいまる	豊明市	26,610部 第3金曜日発行
Cocon club	刈谷市	60,000部 第3金曜日発行
ちるる	知立市	28,700部 第3金曜日発行
北知多FM	大府市・東海市 東浦町	65,000部 第4金曜日発行
安城FM	安城市	40,300部 第3金曜日発行

滋賀県	県内発行媒体数 6誌	県内総発行部数 460,928部
守山市	守山市	68,200部
緑区	緑区	83,200部
豊橋市	豊橋市・豊川市 田原市・新城市	120,000部 最終金曜日発行

コミュニケーションを活性化し、組織力を強化

愛知県で約100年続く企業より、定期発行の社内報をお任せいただきました。会社幹部の人柄や考えを共有し、より身近に感じてもらうことで、コミュニケーションを活性化し、一人ひとりが持つ力を最大限に発揮できるような組織づくりを目指すという意図のもと、企画・制作を行っています。

毎号、幹部社員一人にスポットを当て、生い立ちから入社して現在に至るまでの経験談、今後の目標や未来の展望など、人生観や思いを引き出すものになっています。また、趣味や家族との休日の過ごし方など、普段見られない姿を紹介する企画も設けています。社員の皆さんからは、「雑誌のインタビュー記事のようで驚いた」「知らない一面を知れてよかった」という反響があり、今後も読み手が楽しめる誌面構成を模索していきます。

当社では、目的や意図に適した誌面企画・デザインの提案から、撮影・取材、発行までワンストップで対応可能です。社内で作作物をお考えの企業の皆さんは、ぜひお気軽に営業担当までお問合せください。

(名古屋SP2課・鳥本)



情報誌がつなぐ、スポーツと地域の絆

群馬県太田市を本拠地とした、B.LEAGUE所属のプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」。10月のシーズン開幕を前に、「太田フリモ」9月号では、読者から熱い応援メッセージを募集するプレゼント企画を実施しました。チームを支える地元企業の特集記事も掲載し、地域一体となった応援ムードを醸成しました。

発行後、メッセージが続々寄せられ、プロスポーツチームの影響力に驚かされました。同企画は今年で3回目を迎えました。年々反響が大きくなっています。10月号以降は、「群馬クレインサンダーズ通信」というコーナーを設け、シーズン中の選手の情報や、ホーム戦の日程なども発信していく予定です。

地元スポーツチームと企業、そして市民が一体となってまちが盛り上がり、このを感じ、情報誌を通じて地域を元気にするという、私たちの使命を果たせたことを誇りに思います。今後も地元スポーツチームを応援し、地域活性化に貢献してまいります。

(太田フリモ編集室・金澤)



ワンストップ対応でキャンペーンを成功へ導く

群馬県プロボナール「特殊詐欺被害防止の啓発及び電話対策機器普及業務」を3年連続で受託しました。キャンペーン告知(群馬全誌の情報誌・チラシ・ポスター・ウェブサイト・イベント運営など)、装置の配送手配、県内全域へのチラシ仕分けなど、幅広い業務を担当しています。

一昨年は桃太郎、昨年は一寸法師と、昔ばなしをベーステーマにキャンペーンを展開してきました。今年には金太郎を起用し、特殊詐欺被害に遭いやすい高齢の親、そして祖父母がいる子・孫への訴求に重点を置きました。今回のタイトル「ここからサギは通さない」は、「詐欺と先」の言葉を掛け、対策機器の特徴をキャラクターで表現しています。

今年から追加となったイベント運営では群馬県、県警音楽隊やエフエム群馬と連携して準備を進め、イオンモール高崎に集まった来場者に大変好評でした。社会問題の解決や地域貢献の一助になるような企画立案・プロモーションなどはぜひ弊社へお任せください。



(高崎フリモ編集室・島田)

生産性が劇的に向上! リピート必至の導入効果

国内外に複数の拠点を展開し、解体業を営む神谷商会より、MAXHUBを追加発注いただきました。MAXHUBとは会議空間に必要なマイク、スピーカー、カメラ、電子ホワイトボードをディスプレイ1台に備えている、インタラクティブボードとカテゴリズされるデジタル機器です。WindowsOSを搭載しているため、操作方法はPCと同じ。デジタル機器導入でつまづきがちな「使い方がよく分からない」という失敗がなく、導入した瞬間からスムーズに活用いただくことが可能です。室内空間をデジタルに変えるオールインワンのミーティングボードは、企業のDXを加速させること間違いなし。オンラインミーティングの準備は電源を入れるだけなので、準備時間を大幅に削減できます。

今回、神谷商会には使い勝手の良さに大変ご満足いただき、1台目納品後すぐに2台目の受注となりました。東京・岐阜・名古屋・福岡などに、体験ルームをご用意しています。社員の業務外負担を軽減するためにも、ぜひ導入をご検討ください。

(名古屋SP1課・尾関)



中広グループ児童虐待防止運動が文部科学省・こども家庭庁の後援活動に

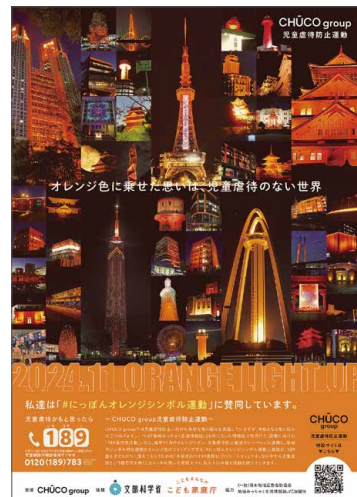
中広グループは2018年より、児童虐待の早期発見・対応を促す児童相談所虐待対応ダイヤル「189番」の認知度向上に取り組んでいます。国内随一のフリーメディアを発行し、地域経済の活性化を支援する企業として、重要な使命に据えています。

活動の柱は3つ、まず、「地域みっちゃん生活情報誌」を通じた189番の啓発。次に、こども家庭庁によるオレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンと連携した「#にっぽんオレンジシンボル運動」。そして、子ども自身が行動を起こせるように促す「小学生向け189番周知プロモーション」です。

この度、これらの運動が文部科学省、こども家庭庁からの後援を得ることとなりました。これまで協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

11月は「#にっぽんオレンジシンボル運動」の活動月間です。街の象徴的な建物をライトアップし、児童虐待のない社会への願いをオレンジの光に託します。運動に賛同いただける企業様、施設様は、ぜひ当社スタッフまでご連絡ください。

(広報・マーケティング担当 岡本)



▲「#にっぽんオレンジシンボル運動」に賛同いただいた皆様に、こちらのポスターを配布します



詳しい活動内容は特設サイトをご覧ください

QRコード

滋賀県女性のわくわく応援事業に協力

びわこ編集室は、再就職を目指す女性を応援する滋賀県主催の「女性のわくわく応援事業 お仕事体験DAY」に参加しました。編集室の仕事内容の紹介や、求人広告の制作体験のほか、子育て中の社員との座談会を実施。参加者からの率直な質問に、社員も自身の経験を交えて語るなど、和やかなひと時となりました。編集室にとっても、普段の業務や職場環境を客観的に振り返る貴重な機会となりました。

(びわこ編集室・田中)



▲参加者のアイデアをラフ案にしました

広告費は読者から! 画期的ビジネスモデル

6月号の特別企画として、チケット1枚で18カ所の温泉施設をお得に楽しめる「みやざき温チケ」を発売しました。これは、広告費が捻出しにくい温泉施設と「温泉特集をしてほしい」という読者の声、双方に応える画期的な企画です。

読者にはチケット購入で割引特典を提供し、その収益を掲載料に充てることで、温泉施設の掲載料を無料とする仕組みを採用。販売期間3カ月、利用期間4カ月で、約100万円のチケット収入を達成しました。読者からの問い合わせや温泉施設からの継続要望も多く、大きな反響を得ています。

情報誌を介して、読者と温泉施設、双方にメリットのある関係を築き、地域活性化にも貢献することができました。



▲「みやざき温チケ」掲載誌面

株式会社関西ぱど



▲株式会社関西ぱどスタッフ

株式会社関西ぱどが発行する「ぱど」は、1989年に大阪府枚方市で創刊。地域密着型のポスティング型情報誌として、「ぱど京阪北版」は主に枚方市・寝屋川市・交野市を、「ぱど京阪南版」は主に守口市と門真市を発行エリアに、グルメやイベント、美容・健康など、暮らしに役立つ情報をお届けしてきました。

そしてこの度、2024年8月で創刊35周年という節目を迎えるにあたり、大幅なりニューアルを実施。読みやすさを追求した紙質の変更、ハッピーメディア®に合わせた右開きへの変更に加え、長年のご愛顧に感謝を込めた35周年読者プレゼント企画を実施。読者の皆さんに、一段とお楽しみいただける情報誌と生まれ変わりました。

これからも私たちは、「生活者視点を持って、顧客の課題に向き合い、価値ある解決策で、地域から日本を元気に!」という関西ぱどの理念のもと、地元の魅力を発信し、地域とのつながりをより一層深めながら、読者の皆さんのニーズに応え続けてまいります。今後とも「ぱど京阪北版・京阪南版」をどうぞよろしくお願いいたします。

(株式会社関西ぱど・渡邊)

編集後記

中広グループが推進する児童虐待防止運動を、文部科学省とこども家庭庁が後援していただくことになりました。省庁の後援がつくのは中広史上初のこと。「日本から児童虐待を無くしたい」。この思いに共感いただけた結果だと受け止めています。私たちの活動に対する大きな励みになると同時に、責任の重さを改めて実感しています。ご協力いただきました皆様には本当に感謝申し上げます。

運動の一つである「#にっぽんオレンジシンボル運動」は、来月1,000カ所でのライトアップを目指しています。私たちは189番の認知向上が、助けを求める子どもたちの暗く沈んだ心の灯となると信じています。1カ所でも多く灯すことで、より多くの方へこのメッセージを届け、街全体で子どもたちを見守るそんな象徴となるように、今後も全力で取り組んでまいります。

(広報・マーケティング担当 岡本)

『ままここと®』

園児から家庭に直接届く子育て情報満載のフリーマガジン

【配布先】 県内全域の幼稚園・保育園・こども園
【設置先】 産婦人科・小児科・児童館・図書館・ショッピングモール等
【仕様】 冊子A5版 オールカラー

『Start!』

進路選びを応援する高校生のための就職応援メディア

【配布先】 高校
【仕様】 冊子A4 オールカラー
【発行エリア】 山形県、群馬県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、鳥取県



『講演会インフォ』

ゲスト講師、タレント選びからイベント企画立案、当日の運営までサポートするネットワークサービス

【対応エリア】 全国
【内容】 講演会・研修会・ウェブセミナー・コンサートの企画運営

クーポンアプリ「フリモ」

ダウンロードはこちら (iPhone/Android)

フリーマガジンに掲載しているクーポンがスマホの中に! 切り取らなくてもスワイプで簡単に使える!

対応OS: iPhone: iOS14.0以上 Android: 7.0以上
※ダウンロード数 453,759件 (2024年9月22日現在)



